

地域を象徴する色（エリアカラー）に関する地理学的考察

－文化地理学関連授業における学生レポートをもとに－

中村 周作

Geographical Considerations for Symbolic Area Colors
－ Based on the Reports of Students in regards to the Lectures of Cultural
Geography －

Shusaku NAKAMURA

1. はじめに

宮崎県のホームページによると、県のシンボリックな事物として県の木がフェニックス、ヤマザクラ、オビスギ、県の花がハマユウ、県の鳥がコシジロヤマドリとなっている¹⁾。お隣の鹿児島県では、同様に県の木がカイコウズ、クスノキ、県の花がミヤマキリシマ、県の鳥がルリカケスとされている²⁾し、熊本県では、県の木がクスノキ、県の花がリンドウ、県の鳥がヒバリ、県の魚がクルマエビとされている³⁾。このように、各都道府県で木や花、鳥、魚、獣などがシンボルとして採用されている。この他、地域のシンボルとして、いわゆる‘ゆるキャラ’が各地で定着し、活躍している。しかし、地域を象徴するものは、そういった人々がイメージしやすい事物だけに止まるものではない。地理学でいう景観の様々な構成要素を分解して抽出した地域の色や音、臭い（香り）などといったような五感で感じる要素もまた、重要なシンボルたりえる。例えば事例は少ないが、神奈川県相模原市が、市の色を緑と定めている。また、さいたま市では、小中学生の投票によって決定された10区のシンボル色を公表している(第1表)⁴⁾。

第1表 さいたま市各区のシンボルカラー

区名	地域の色	選定理由
西区	青色	川がたくさんあるから
北区	深緑色	盆栽のまちとして有名だから
大宮区	オレンジ色	大宮アルディージャのチームカラーだから
見沼区	空色	自然が豊かで澄んだ空が広がっているから
中央区	バラ色	バラの花のまちとして有名だから
桜区	桜色	サクラソウの自生地があるから
浦和区	赤色	浦和レッズのチームカラーだから
南区	レモン色	区の若々しいイメージに合っているから
緑区	緑色	区の名前にふさわしく、緑がたくさんあるから
岩槻区	山吹色	やまぶきの花にまつわる伝説があるから

地域の色について、建築学などでも、都市景観構成要素としての構造物の配色に関する研究は多いが、文化地理学では、地域のイメージそのものとしての色も重要となってくる⁵⁾。

本稿では、地域景観の構成要素の一つである色（シンボルカラー）を取り上げる。具体的には、各都道府県を特徴付ける様々な事物、例えば風景、建築物、農畜水産物他の特産品⁶⁾などをピックアップし、それらの色をもとに、都道府県それぞれを象徴する色に関して考察し、その選定を試みる。

こういった課題について、筆者は、先に九州各県の色に関する考察を行い、公にしたことがある⁷⁾。本稿では、第2章において筆者による九州7県の色およびその根拠について紹介する。続く第3章では、九州以外の各都道府県の色とその根拠について解説していく。筆者は、2019年度に宮崎大学地域資源創成学部での授業「宮崎食文化論」(3年生配当科目)を担当した。その講義の中で、地域振興策の一つとして、地域を象徴する色を選定し、それを使った地域おこしを考えるという課題を出し、学生に発表してもらった。当該授業の受講生がちょうど30名であったので、彼らが考えてくれた30都道府県と著者の手になる九州7県で、合計37となった。残る10県について、2020年度宮崎大学教育学部授業「地誌学」(3年生配当科目)受講学生に同様の課題を出し、回答を得ることができた。本稿の後半部分は、したがって、授業における教育的成果を公にするものであり、それぞれの都道府県に関する学生発表に、筆者のコメントを付している。

本稿を執筆しようと考えたのは、先に述べたように、地域のシンボルカラーを抽出することで、その文化地理学的な意味を考えること、抽出された色を使っての地域振興策を考えることが目的であったが、授業時の学生の熱心で興味深い発表内容に接し、これを公にして一般の方々に知ってもらい、ご意見をいただけたらという思いがわいたためでもあった。なお、学生によって取り上げられた色は様々であり、中には1県で6～7色というものもあったが、特徴を際立たせるために、原則として3色、最大でも4色までに限定することにした。

2. 九州各県の色に関する考察

1) 鹿児島県の色：黒、白、赤

鹿児島県の特産品や名物を色で見ると、黒牛、黒豚、薩南諸島の黒砂糖、黒麹焼酎、福山の黒酢、始良市竜門司や鹿児島市谷山、日置市美山などの黒薩摩焼、いちき串木野のマグロ（マグロの語源は、切り身が赤黒い‘真っ黒’からきていとされる）、大島紬も基本色は黒であろう。さつま地鶏も外観が黒い。桜島が吹き上げる火山灰、大隅半島に広がる火山灰土壌（黒ボク土）など黒が際立っている。それ以外では、桜島大根や火山灰（シラス）、日置市美山などの白薩摩焼、銘水菓子白熊、伝統の白麹焼酎といった白が目立つ。代表銘菓‘かるかん’も外が白、中の餡が黒である。この他、赤いものとして、霧島神宮の社殿、特に夜間輝く桜島の噴火色、県の花ミヤマキリシマ、県の木カイコウズも赤い花をつける。圧倒的な日本一の生産を誇るサツマイモの黄や紫、知覧茶で著名な茶の色、屋久杉も茶系であろうか。奄美に生息する県の鳥ルリカケスは頭部が濃青色であるし、飛来数日本一の出水のナベヅルは灰色、現在営業が日本唯一となった菱刈鉾山の金、再興した薩摩切子は、紅、藍、紫、緑、金赤、黄の6色を基本色にカットガラスの美しさをみせる。などなど色々なものがあるが、黒、白、赤の3色が、熱い情熱を持ち、白黒つけたがる県民性にもマッチしている。

2) 宮崎県の色：黒，白，緑，赤

宮崎県は、風土、産物などお隣の鹿児島県と共通点が多い。まず、黒牛、霧島黒豚、冬の‘サトネリ’で知られる日南の黒砂糖、黒麹焼酎、黒皮カボチャ、噴火を繰り返す新燃岳の火山灰、県南部に広がる火山灰（黒ボク土）などの黒があげられよう。養殖が盛んになりつつあるチョウザメの卵（キャビア）も黒い。次いで白の産物として、宮崎市田野町を中心に日本一の生産を誇るタクアン原料のダイコン（タクアン自体は黄色）、白麹焼酎、県の花に指定されているハマユウの白い花、外観が白い鶏ブロイラーの鶏肉生産も日本一である。緑のものも多い。例えば綾の照葉樹林、造林された豊かなスギ林、施設園芸農業が盛んで緑のキュウリ、ピーマン、ゴーヤ、ズッキーニなども日本有数の生産を誇る。赤いものとしては、縁結びの神様で知られる青島神社や鶴戸神宮の社殿、赤身魚であるカツオ、マグロ、これも日本有数の生産と品質を誇る完熟マンゴー‘太陽の卵’は外見が赤、果肉が橙の産物である。橙と言えば、‘たまたま’のブランド名を持つキンカンも生産日本一を誇る。その他、茶系として、宮崎神宮や天岩戸神社、高千穂神社などの社殿、生産日本一のスギ丸太も茶系であろう。こうしてみると、宮崎県の色も実に多彩であるが、黒、白、緑、赤の4色を採用したい。

3) 大分県の色：赤，白，茶

九州・瀬戸内文化の結節点である大分県も色合い的には多彩である。まず、赤いものをあげると、全国の八幡様の総本山である宇佐神宮の社殿、紅葉の名所として有名な耶馬溪、生産の多いホオズキ、保戸島のマグロも赤身魚、完熟の赤採りトマトも売り出しである。大分県の花・木に指定されている豊後梅は薄紅色であるし、白杵福良天満宮の招福赤猫もある。次いで白いものをあげると、大分は、‘おんせん県’と称され、源泉数、湧出量ともに日本一、各地で温泉の白い湯煙が上がる。津久見で盛んなセメント製造業の原料となる白い石灰の生産量も日本有数、九重宝八幡の白猪も招福で知られる。茶色いものとしては、生産日本一の乾しシイタケ、別府市は茶系の箆などマダケを使う竹細工で知られる。中津・宇佐名物の鶏のからあげ、佐伯市の郷土料理でうどんなどのダシに使われるごまだしも薄茶色、伝統の小鹿田焼おんたの基本色は白と茶であろう。名物だご汁（やせうま）も麺は白、汁は薄茶系である。この他、著名な関サバ、関アジは青魚（青）、耶馬溪の青の洞門、カボスは緑、豊後の黒牛の黒、別府温泉の地獄には、海地獄（青）、血の池地獄（赤）、白池地獄（白）、鬼石坊主地獄（灰）などの色がある。大分県の色も実に多彩であるが、赤、白、茶の3色に特徴があると言えよう。

4) 熊本県の色：赤，黄

熊本県の色は何であろうか。ここの風土、特産品として、火の国阿蘇山の噴火色、ブランド牛である肥後の赤牛、伝統の地酒である赤酒、馬刺し（桜肉）、植木のスイカ、八代の塩トマト、天草のマダイヤイセエビ、熊本市には赤味噌もある。J傘下のサッカーチームロアッソ熊本のチームカラーも赤である。それ以外の名物として、熊本ラーメンや辛子レンコン、県南で産する世界最大の柑橘類である晩白柚、有明海や八代海で採れるアサリ身の黄色があげられる。また、熊本県は橙色のミカンの大産地でもある。天草の真珠やいきなり団子の外見、米焼酎である球磨焼酎の醪などは白である。県の花に指定されている阿蘇のリンドウが青紫、県の魚に指定されている天草のクルマエビが濃茶と薄茶といった茶系の縞模様、肥後国一の宮である阿蘇神社や人吉の青井阿蘇神社も社殿が茶系、有明海のノリが黒、加藤清正の築城になる熊本城も

黒い城である。と言ったように、熊本県も色々あるが、県の色としては、情熱の赤と比較的多く産物などが出てきた黄をあげよう。

5) 長崎県の色：黄，白，赤

長崎県にもたくさん名物がある。有名な長崎の銘菓カステラ，その類似として平戸のカストース，壱岐のカスマキがあり，これらは卵と白砂糖を効かせた黄色い菓子である。茂木ピワ，壱岐のウニ，ザボン，北海道に次ぐ生産を誇るジャガイモも黄色であろう。長崎，小浜などのチャンポンには多彩な具が入るが麺やスープといった基本色は黄色であろう。また，歴史的には江戸時代ヨーロッパから唯一物資が入ってきた長崎には，いろいろな舶来品が入ってきたが，その中でも白砂糖は，菓子や料理に広く使われてきた。長崎料理の食味が，一般にかなり甘いと言われる理由である。ちなみに，当時貴重な白砂糖は，長崎街道を東進して佐賀，福岡にももたらされ，これらの地域でも各地で独特な菓子類が発達したことで，長崎街道が俗に‘シュガーロード’と称されることもある。日本で最も早く中国から製法が伝えられたと言われる五島うどんや，鳥原そうめん，鳥原のスイーツかんざらしに入る白玉団子，壱岐の白麴ムギ焼酎は，白色系の名産品である。また，昔から捕鯨の拠点であったことからクジラの赤身，県の花に指定されている雲仙ツツジ，県の花木の五島のツバキも赤である。長崎中華街，ランタンフェスティバルの赤提灯など赤も重要な県の色であろう。これら以外にも，有明海のノリの黒などがあるが，総じて言うと，豊かさ・めでたさを表す黄，白，赤の3色が際立っている。

6) 佐賀県の色：白，黒

佐賀県の特産品は，昔から白と黒と言われてきた。それは，かつて佐賀段階，新佐賀段階⁸⁾と2度にわたって単位面積当たり収量日本一を記録した米であり，1960（昭和35）年頃まで，当地の基幹産業であった炭鉱から産出する‘黒いダイヤ’と称された石炭であった。この他，長崎県のところでもふれたシュガーロードを通ってくる白砂糖であったり，石炭産業が終焉を迎えた直後からは，現在まで日本一の生産を誇る有明海の養殖ノリも代表的な白と黒の産物である。県の鳥に指定されているカチガラス（カササギ）は，胸とお腹が白く周りが黒い。また，小城市物の羊羹は，白系のザラメ，砂糖と黒系の小豆を使った菓子である。肥前田代で作られてきた貼膏薬は，今でこそ目立たない肌色が中心になっているが，初期のものは黒く，痕が残らないように白い膏薬が後に開発された。佐賀平野特産のレンコンも，黒い泥田で作られる白い産物である。かつて，その漁獲で大いに栄えた呼子のクジラも背が黒，腹が白の海獣である。この他，黒系と言えば，有明干潟の阿蘇火山灰性の潟土，上場台地から東松浦半島に至る地域の基盤岩である玄武岩，有明海の珍魚ムツゴロウも青白い斑点を散りばめた黒系の魚体であろうか。黒毛和牛の佐賀牛も著名である。一方，白系と言えば，郷土の花に指定されているクスノキの花，佐賀平野裏作の小麦で作られる神埼そうめん，佐賀県を代表する産業の一つである有田焼などの白磁，かつて有明海の主要産物であったカキも殻は黒，身は白系である。大和川上峡の白玉饅頭，呼子のイカ，白石平野の裏作で作られるタマネギも白系であろう。佐賀県の特産品としては，この他にミカン，嬉野茶，イチゴ（さがほのか），金糸などを使う佐賀錦，唐津くんちの代表的な曳山である鯛のような派手な赤もあるが，やはり地道，堅実な県民性を反映した白と黒でまとめるのが，佐賀県らしいと言えよう。

7) 福岡県の色：赤，白，黒

福岡県の風土や特産品を並べてみると、実に多彩であり、特定の色を選定することが難しい。いろいろな場所からいろいろな人々や文化が集まる大都市を含む当県は、それゆえ人も色も多彩である。主要な特産品の色をあげると、赤が明太子、イチゴ（あまおうやとよのか）、博多ラーメンの上に載る紅ショウガ、太宰府天満宮の社殿および紅梅などをあげることができよう。なお、ウメは紅白合わせて福岡県の花に指定されている。県の木であるツツジも花が赤い。秋、英彦山参道や呑山観音寺の紅葉も美しい。一方、北九州・筑豊とくれば、伝統的に黒の石炭、鉄鋼、有明海産のノリも黒である。また、白系では博多うどん、太宰府天満宮の白梅、梅ヶ枝餅（外が白、中の餡が黒）、博多祇園山笠の白装束、筑後平野の米などがある。この他、当県のシンボリックなスポーツチームに成長したソフトバンクホークスのチームカラーが黄と黒、伝統の久留米餅の基本色が藍（青）と白などがあげられるが、ここでは、めでたい赤と白、それに黒の3色を県の色としよう。

こうしてみると、九州の特産品は白系と黒系が卓越し、それに各地独自の色が絡んでくるように思われる。次章では、学生の考えた報告をもとに、九州以外の各都道府県の色とその選択理由について論を進めていく。

3. 九州以外の各都道府県の色 - 学生の研究発表をもとに -

8) 沖縄県の色：赤，緑，黒，茶

沖縄県の色は、赤，緑，黒の3色である。まず赤と言えば、琉球のシンボルである首里城がある。デイゴ、ハイビスカスも赤い花である。スイーツの材料によく使われる紅芋（サツマイモ）もある。沖縄の代表的な魚であるグルクンも、赤い魚である。伝統の沖縄赤瓦も、もちろん赤い。続いて、沖縄県の緑と言えば、やんばる（山原：本島北部）の森がある。沿岸の汽水域に展開する亜熱帯植物に特有のマングローブ林、海ぶどうやゴーヤ、シークワサーも緑色の産物である。最後に、黒と言えば、特産の黒糖、黒毛和牛の石垣牛などがある。[教育学部3年 K.N さん]

教員によるコメント：赤，緑，黒でうまくまとめることができた。首里城は、かつての王宮として、壁も瓦も赤い中国風の建築物である。残念ながら2019年10月31日に焼け落ちたものの再建が期待されている。沖縄県の花に指定されているデイゴ、ハワイなどから移植されたとされるハイビスカスも黄，白，ピンクなどの花色もあるが、やはり最も目を引くのは赤であろう。また、県の魚に指定されているグルクンは、海中では鮮やかな青であるが、死ぬと体色が赤に変化する。したがって、市場や店で見かける時は、鮮やかな赤い魚である。やんばるの森は、ヤンバルクイナに代表されるような珍しい動植物の宝庫で、2016年に国立公園、2020年にユネスコの世界自然遺産登録を目指している。あげてくれた物以外のものをあげると、泡盛は、伝統的に黒麹を使って原料の碎米を糖化する。生産量が宮崎県を上回るマンゴーは外見が赤、中身は黄色である。壺屋焼の基本色は、青，緑，茶となっている。琉球ガラスも多彩であるが、橙，茶，緑，水色，青，紫の6つが基本色とされる。生産日本一のモズクは、茶系であろうか。当県で生産されないが、歴史的な経緯で消費の多いコンブの料理は、深緑であろうか。こうしてみると、沖縄県の色として、赤，緑は納得。これらに加え、黒と茶の4色としよう。

9) 高知県の色：赤，緑

高知県の色は，赤である。当県の代表的な料理にカツオのたたきがある。カツオは，赤身の代表的な魚であり，当県は，カツオの消費量が日本一である。また，当県の代表的なお祭りに，よさこい祭りがある。よさこい祭りは，鳴子を持った踊り子たちがよさこい節に合わせて市内を踊り歩く情熱的なお祭りで，参加者は，全国から200チーム以上，約2万人にも上る。この踊り子たちの着物は，非常にカラフルであるが，基本色が赤となっている。また，幕末に多くの情熱的な偉人を輩出した地でもあり，その情熱を持った県民性も赤色に例えられるであろう。[地域資源創成学部3年J.Yさん]

教員によるコメント：高知県の色をうまく赤で表してくれた。カツオは，高知県の魚にも指定されている。宿毛の特産であるサンゴも赤，有名な観光スポットであるはりまや橋も赤である。県の花に指定されているヤマモモの雌花や実も赤い。しかし，この他の特徴的なものを拾っていくと，海，黒潮の青と黒，スギを中心とする山林の緑，農産物として日本有数の生産をあげているものだけでも，ユズの黄，盛んな施設園芸作物として，ニラ，ピーマン，シシトウ，キュウリなどの緑，ナスの紫，ショウガの薄黄土色など多様である。したがって，高知県の色として，赤にあえて加えるならば，これらの特徴的な事物の中でも多く出てくる緑であろう。

10) 愛媛県の色：橙，茶

愛媛県の色は，茶である。愛媛を代表する食べ物には茶色のものが多い。タルト，坊ちゃん団子，薄墨羊羹，大洲の銘菓志ぐれ，ひぎりやき（松山の今川焼き），じゃこ天，じゃこカツ，麦味噌，三津浜焼き（松山のお好み焼き），今治焼き鳥，せんざんぎ（東予地方の鶏のから揚げ）などがあげられる。茶色にはぬくもり，伝統，歴史などのイメージがある。3000年の歴史があると言われる道後温泉や「日本100名城」の一つに数えられる松山城，平安末期からの歴史があるとされるお遍路さん（四国八十八ヶ所）のうちの26寺も茶系の特徴的事物である。[地域資源創成学部3年Y.Tさん]

教員によるコメント：うまく茶系でまとめてくれましたが，坊ちゃん団子は，茶，黄，緑のセットであり，小豆を使った羊羹を茶系とするには少し無理があるような気がする。とは言え，茶系が多いのは事実である。この他，あえてあげるとすれば，やはりミカンの橙色であろうか。当県は，日本有数の柑橘類産地であり，ミカン色の県である。松山市内と周辺地域との交通を担う伊予鉄道車両のイメージカラーも橙色である。県の鳥コマドリも頭が橙色である。この他，タルトは，黄と黒の銘菓，生産日本一を誇る宇和島の養殖真珠は白系，砥部町の砥部焼は，白と藍の焼き物，黒系の薄墨羊羹，有名な宇和島の闘牛も黒牛といったように色々なものがあるが，愛媛県の色は，印象度からも橙と茶の2色としよう。

11) 香川県の色：白，黄

香川県の色は，赤，白，青である。赤は太陽が照る時間が長いことがあげられる。白は，香川県で水揚げされる魚の多くが白身魚であること，何よりも讃岐うどんの存在が大きい。青は，瀬戸内海の海の色，香川県の民謡である「金比羅船船」踊りの着物が青と赤を主体としているものが多いために採用した。[地域資源創成学部3年K.Nさん]

教員によるコメント：赤が瀬戸内式気候で日照時間が長いだけというのと青が瀬戸内海の海の色だけだと少し苦しい。香川県は，‘うどん県’と称される。したがって，まず取り上げら

れるべき色は学生も取り上げてくれた白であろう。江戸時代当地の名産として、'讃岐三白'、すなわち、塩、砂糖、綿花があった。かつて盛んであった沿岸での製塩業は、昭和46（1971）年に塩田全廃ということで、姿を消した。伝統の砂糖である和三盆は、現在でも東かがわ市で造られている。綿花も昭和37（1962）年まで栽培が行われていた⁹⁾。この他、香川県の正月雑煮は、あんこ餅が入った白味噌仕立ての独特なものである。小豆島のそうめんもある。県の花に指定されているオリーブも白い可憐な花を咲かせる。四国八十八ヶ所遍路旅の白装束も印象が強い。次いで金比羅さんのイメージカラーは黄ないし金、伝統の高級砂糖和三盆も基本色は白というより淡い黄色、小豆島特産のオリーブオイルも黄色系、高松琴平電気鉄道琴平線のイメージカラーも黄色である。この他、日本で最初に養殖技術が開発されたハマチ（県の魚西丁）は赤身魚である。花卉としてラナンキュラスの生産も多く、県のオリジナルブランド手まりシリーズとして、白、赤、藤、桃、黄など多彩である。ということで色々あるが、香川県の色としては、白と黄を採用したい。

12) 徳島県の色：桃、白、茶

徳島県の色は、桃色である。名物の阿波踊りの装束は、カラフルであるが、女性の着物が総じて桃色系である。この他、名物としてはスタヂ、竹ちくわ、大野ノリ、徳島ラーメン、金長まんじゅう、阿波ういろうなどがあるが、強烈な色は、やはり桃色系である。[地域資源創成学部3年 N.S さん]

教員によるコメント：徳島県の桃色のものとして、上記以外に切り花生産日本一の洋ランもある。鳴門の蓮の花は、夏に桃色の見事な花を咲かせ、収穫された白いレンコンは日本有数の生産を誇る特産物である。阿南市の明谷梅林の紅白ウメ、佐那河内村徳園寺のシャクナゲも美しい桃色の花をつける。白から連想されるものに、県の花に指定されているスタヂの白い花、県の鳥シラサギ、四国八十八ヶ所遍路旅の白装束、鳴門の白い渦潮も有名である。また、茶系の産物として、生ワカメ、学生があげてくれた金長まんじゅう、小松島の竹ちくわ、徳島ラーメンなどがある。阿波国と言われていた江戸時代、当地の特産が藍染め（藍・青系）であった。緑の産物として、スタヂや鳴門の茹でワカメも有名である。J2 徳島ヴォルティスのチームカラーは、藍と自然を表す緑、情熱の赤の3色となっている。なると金時（サツマイモ）は黄色、阿波ういろうは、小豆色（紫系）の産物、県の木ヤマモモの実は赤い。ということで、徳島県も色々あるが、県の色として、数の多さと印象度から桃、白、茶の3色をあげたい。

13) 山口県の色：赤、茶、白

山口県の色は、赤、茶、白である。赤は、長門市の観光スポットである元乃隅稲成神社の123基の赤い鳥居、防府天満宮の社殿、宇部の月待ちガニ（ワタリガニ）、柳井の金魚ちょうちん、伝統の大内塗は、赤の生地に黄緑や金箔で彩色を施す漆器である。また、押し寿司の一つである伝統の岩国寿司は、錦糸卵の黄、エビの赤、レンコンや酢飯の白、シイタケの茶など色とりどりのごちそうである。茶色の名物・特産として、岩国の錦帯橋やライトアップされた秋芳洞内も茶系の色合いであろうか。豊浦の瓦そば、小野田アサリ、周防大島の茶がゆ、下松の笠戸ヒラメ、山口市のワラビ粉を使うういろうには、黒、白、抹茶の3色があるが、総じて言うと茶系であろう。最後の白い名物・特産としては、岩国城、下関のふく（トラフグは、背が黒、腹が白い）、先述の岩国寿司、岩国レンコン、笠戸ヒラメも刺身にすれば、白身が美しい。以

上のことから、山口県の色として、赤、茶、白を選定する。[地域資源創成学部3年 A.K さん]

教員によるコメント：たくさんの名物や特産品をあげて、3色にうまくまとめることができました。この他、白として、夏みかんの花が県の花に指定されている。下関のふく提灯も腹が白、背が濃茶であろうか。ふくも、山口県の魚に指定されている。

14) 広島県の色：赤、茶、白

広島県の色は、赤、茶、白の3色である。広島県には、宮島の海上に浮かぶ赤色の大鳥居と社殿で有名な厳島神社がある。当神社は、世界遺産にも登録され、松島や天橋立と並ぶ「日本三景」の一つに数えられる。また、プロ野球球団広島カープもチームカラーが赤である。当県には、負の遺産とも言える原爆ドームがある。世界平和を訴えるため、市民が一丸となって働きかけ、1996年に世界遺産にも登録された。この原爆ドームの外観から茶を採用した。有名な広島風お好み焼きや銘菓もみじ饅頭も茶色の名物と言えよう。白い産物としては、日本一の生産（2018年度、全国生産の58.9%）を誇るカキがある。[地域資源創成学部3年 R.K さん]

教員によるコメント：選定色、その理由ともよく考えられている。この他に広島の赤と言えば、県の木にも指定されている帝釈峡の紅葉がある。宮島のしゃもじは、茶系の名物であろうか。尾道の耕三寺は、白い大理石を使った造形物、また、清酒処東広島市西条の酒醪も白い。廿日市の中国醸造では、生乳を使った白いお酒のシリーズを出しているなどなどと言うことで、広島県の色は、赤、茶、白の3色、奇しくも隣県山口と同色となった。

15) 岡山県の色：桃、茶、青

岡山県の色は、桃色である。当地方には、桃太郎伝説がある。モモが特産で「清水白桃」や「おかやま夢白桃」などのブランドがある。県の花も、モモの花が採用されており、県の色はやはり、桃色である。[地域資源創成学部3年 M.N さん]

教員によるコメント：岡山県は、その特産などを考えていくと、色を絞るのが難しい県である。学生があげてくれた桃色の他、茶系の産物として、伝統の備前焼、きびだんごなどがある。黄緑系としては、特産のマスカット、青系として、瀬戸内式気候で「晴れの国おかやま」を標榜する晴天、青物の魚としてサワラやママカリも有名である。また、児島は、日本のジーンズ発祥地とされる青生地町の町である。伝統のばら寿司は、多様な彩りと豊かな味を誇る郷土料理である。こうしてみると、桃色に加えて伝統の茶、バラエティに富んだ青の3色を岡山県の色としよう。

16) 島根県の色：茶、白、桃

島根県隠岐のローソク島は、夕日がよく映える。松江城を囲む3.7kmの堀川沿いに灯籠が並び、辺り一面が幻想的な光に包まれる松江水燈路など、温かな光に関わる美しいものが多いので、金色とする。[地域資源創成学部3年 A.N さん]

教員によるコメント：光の色を金と捉えるのは、独特の感性を感じる。ただ、島根県にある様々な名物・特産などを考えると、違った色が出てくるのではないだろうか。例えば、当県には、古く格式の高い神社、縁結びの神としてよく知られる出雲大社や事代主系えびす3千社の総本山として知られる美保神社があり、これらの建物は、総じて茶系である。名物の出雲ソバやアゴ野焼き（トビウオの焼きかまぼこ）も茶色であろう。一方、宍道湖が日本一の生産を誇

るヤマトシジミは、殻が黒く、身は白い。県の鳥に指定されているのは、宍道湖や中海で越冬する白鳥である。浜田の名物塩干しカレイも白い。石見銀山でかつて生産された銀は、白銀とも言うなどなど、白系のものも多い。また、県の花は、これも生産日本一、大根島のボタンで、これは桃色の美しい花である。中国地方では、山間地を中心に昔からワニ（サメ）の刺身が好まれてきた。ワニは、死ぬと身にアンモニアが回り、保存が利く。これを水でよくさらして桃色の刺身として食した。桃色でもう一つ、益田の老舗酒蔵で造る「桃色しづく」という銘柄の酒もある。とすることで、鳥根県の色は、茶、白、桃の3色としたい。

17) 鳥取県の色：白

鳥取県の観光地としては、鳥取砂丘や2005年にラムサール条約の湿地に登録された米子水鳥公園などがある。そして、名産品である二十世紀梨、砂丘ラッキョウ、白イカ、白ネギ、米子水鳥公園の白鳥、冬に雪を被った鳥取砂丘の景色などから、鳥取県の色として白を採用する。[地域資源創成学部3年 T.N さん]

教員によるコメント：鳥取県には、確かに白い名物や特産が多い。二十世紀梨の白い花が、県の花に指定されているし、鳥取砂丘の砂も、内陸側は黄、沿岸が灰白色である。伯耆富士と称される大山の雪景色も美しい。また、神話「因幡の白ウサギ」もよく知られるところである。この他に、松葉ガニの赤、県の鳥に指定されているオシドリは茶系、県の魚であるヒラメも外観が茶系の白身魚である。とすることで、鳥取県の色は、他を圧倒する質・量を誇る白としよう。

18) 和歌山県の色：白，橙，赤

和歌山県の色は、白、橙、赤、灰色の4色である。白いものとして、白浜町にある石英砂の白い白良浜海岸と同町にあるアドベンチャーワールドには6頭ものパンダがいて、これは、白と黒の珍獣である。橙としては、全国生産1位のミカンと柿がある。赤いものとしては、これも果樹のウメの生産が日本一であり、南高梅として知られる梅干しも著名である。最後の灰色は、イルカの色である。江戸時代から捕鯨の盛んな太地町を中心にイルカの捕獲や伝統料理食材としての消費量が多い。[地域資源創成学部3年 T.I さん]

教員によるコメント：ウメの生産が多いことは、学生も書いてくれているが、和歌山県の花もウメの白い花である。紀州徳川家の和歌山城も白い城である。また、由良町の白崎海洋公園も白い石灰岩の並ぶ海岸に特徴がある。南高梅の梅干しは、赤と言うよりも薄橙系であろう。同じ橙系のミカンは、有田地方、柿は紀ノ川流域が生産中心となっている。赤いものとしては、生産の多いイセエビや紀三井寺の楼門がある。また、県の魚に指定されているマグロも赤身魚である。歴史的に真田父子幽閉の地である九度山町は、彼らに因む赤で町おこしを図っている。当県には由緒のある寺社が多い。高野山金剛峯寺や熊野大社の建物は、渋い茶色であろう。農産物としては、緑系の山椒やグリーンピースの生産が多い。県の鳥に指定されているメジロも黄緑色であろうか。学生があげてくれた太地町は、捕鯨の地として知られる。クジラは、背が黒、腹が白の海獣である。こうしてみると、和歌山県の色は多様であるが、数的に見てあえて絞ると、白、橙、赤となろう。

19) 奈良県の色：白，茶，赤

奈良県の色は、白、茶である。奈良盆地で生産される米は、おもにヒノヒカリで、もちろん白い。

米から造られる奈良酒もよく知られる。茶色としては、奈良公園の鹿の模様が茶地に白斑点であるし、現存する世界最古の木造建築群と言われる法隆寺も、外観は茶系である。奈良の街並みも木造の茶色が目立つので、県の色として白と茶を選定した。[地域資源創成学部3年 M.T さん]

教員によるコメント：歴史のある奈良県の色として、まず白があげられる。現在、奈良盆地で広く栽培されている米は、学生が指摘してくれたように九州由来のヒノヒカリである。古い歴史を持つ奈良酒も、醪は白い。桜井の三輪そうめんも著名である。パールホワイトという白イチゴも売り出しである。茶色としては、法隆寺以外でも東大寺や唐招提寺なども外観は茶系の寺院である。東大寺と言えば大仏も建立当初はメッキで金色であったが、今はそれがはげて銅地金の深い茶色である。また、奈良漬や、県の木に指定されている吉野スギの木肌も茶系である。一方で、当県に多い寺社の中には、赤い社殿を持つもの、例えば春日大社や興福寺も目立つ。赤と言うと、この他に大和牛の肉は、赤もしくはピンク系であろうか。大和郡山市特産の金魚も赤い観賞魚である。ピンクと言うと県の花に指定されている奈良八重桜も美しい。正岡子規も詠んだ橙色の柿は、生産が日本有数である。と言うことで色々あげたが、結論として奈良県の色は、白、茶、赤の3色としよう。

20) 兵庫県の色：白，赤，黄

兵庫県の色は、白、黄、赤の3色である。白色のものとしては、国宝、世界文化遺産にも指定されている白鷺城とも称される姫路城、県の花に指定されているノジギクの花びら（舌状花）がある。黄色は、ノジギクの花の芯の部分（筒状花）の色をイメージした。赤は、神戸の中華街や神戸ポートタワーからイメージした。[地域資源創成学部3年 K.T さん]

教員のコメント：兵庫県の色も多様である。学生があげてくれたもの以外の白いものとして、日本三大水仙群生地に数えられる淡路島の水仙も白と黄の花である。また、灘地方には多くの清酒メーカーが立地する。清酒は、透明ないし薄黄色であるが、醪は白い。酒米として有名な山田錦の生産も兵庫県が日本一である。竜野のそうめん、神戸ワインの白、淡路島のタマネギ、かつて生産が盛んであった赤穂の塩、県の鳥に指定されているコウノトリなどがあげられよう。次いで、赤色のものとして、神戸の北野町異人館のシンボリック建築物である風見鶏の館も赤レンガ造りである。神戸牛や神戸ワインの赤、全国生産1位を誇る松葉ガニ、明石のタコ、淡路島のカーネーションも著名であろうか。商売の神様蛭子系えびす 3.5 千社の総本山である西宮神社の本殿も赤い。黄色は、上記以外に明石焼きや阪神タイガースのチームカラーなどがイメージされる。この他、宝塚歌劇団5組のイメージカラーが「花組」の赤、「月組」の黄、「雪組」の緑、「星組」の青、「宙組」の紫となっている。甲子園の芝やツタの緑、丹波栗やイカナゴのくぎ煮、日本一の生産を誇る小野のそろばんの茶、丹波の黒豆、明石のノリ、先述のコウノトリの風切羽の黒、三木の刃物（鋼色）などもあるが、数的・量的に豊かな白、赤、黄の3色を兵庫県の色としよう。

21) 大阪府の色：黄，白，黒

大阪府の色は、黄色である。大阪人の明るくパワフルな府民性と、お金に厳しいイメージ、関西を代表する阪神タイガースのチームカラーの黄色と黒から連想した。また、大阪名物であるお好み焼きやたこ焼きに使われる小麦粉や卵の色でもある。[地域資源創成学部3年 K.K さん]

教員によるコメント：大阪のような都会は、人も色も多様、かつ個性的であり、色の特定が難しい。阪神タイガースは、兵庫県西宮市を本拠とする球団であるが、もともとのチーム名は大阪タイガースであり、大阪のチームと言っても問題はなからう。球団のイメージカラーは、黄、ないし白と黒である。大阪府の木である街路樹のイチヨウも秋の黄葉が美しい。黄以外の大阪らしいものをあげると、白の豚まん、てっちり、てっさ（フグ）、白みその雑煮などがある。また、かつて河内や和泉は、白い綿花栽培の中心地であった。豊臣秀吉の時代、大坂城は黒系の城であったが、現在の城は白系に変わっている。大阪府の花は、ウメとサクラソウで、いずれも色としては白、ないしピンク系である。有名なけんか祭りである岸和田だんじりでは、黒法被を着た男たちが、だんじりを曳いて街を駆け巡る。大阪の街を闊歩する黄と黒のヒョウ柄を着たおばちゃんもあまりにも有名であろうか。この他の色として、あべのハルカスが水色、通天閣は銀色系の建造物である。こうしてみると、大阪らしい色としては、メリハリの効いた黄、白、黒のタイガースカラー、これらが明るくパワフルな大阪府の住民性にも適った色々である。

22) 京都府の色：茶、白、金、紫

京都府の色は、茶、白、金、紫である。当府の茶と言えば、古い街並みが茶色で統一されていることがあげられる。京都観光条例によって、自動販売機や電柱までも茶色に塗られている。また、特産品である丹波栗も茶色の産物である。次に、京都で白と言えば、まず舞妓さんの白塗りされた顔が思い浮かぶ。京都を代表する和菓子の一つである生八つ橋もいろんな色があるが、白系も含まれる。京野菜の聖護院ダイコン、聖護院かぶ、京こかぶも白い産物である。京都府指定無形文化財である綾部の黒谷和紙も白である。3つめの金は、金箔からイメージした。京都には金箔を使用した歴史的文化財や伝統工芸品がある。有名な観光拠点である鹿苑寺金閣や金箔糸を使う絢爛豪華な西陣織、金粉を使って蒔絵を描く京漆器などがあげられる。最後の紫は、京都府旗や同志社大学旗の生地に使われていたり、プロサッカーチーム京都サンガのチームカラーなど、京都を代表するものに使われている色であることから採用した。[地域資源創成学部3年MHさん]

教員によるコメント：よく学修して、うまくまとめてくれた。京都市では、条例によって景観を形成する人工物の色彩について厳しい制限がある¹⁰⁾。場所によって違いがあるが、例えば歴史的な街並みに関しては、黄赤、黄、無彩色で低彩度、中明度の色を使う。市街地に関しては、黄赤、黄、紫、紫青、無彩色で低彩度の色を使うなどということ、街並みに関しては、茶ないし薄黄系の色が多くなっている。この他、京都府の茶色いものとしては、慈照寺銀閣や南禅寺、清水寺、三十三間堂、平等院鳳凰堂など数多ある古刹が茶系の渋い建造物である。一方、白いものもたくさんあげてくれているが、この他に龍安寺に代表される石庭も花崗岩を崩した白砂（小礫）に川などを表す紋様が描かれる。京都府の草花に指定されている嵯峨ギクは、白、黄、赤、ピンクなどの繊細優美な花を咲かせる。府の鳥に指定されているオオミズナギドリは、背が灰、腹が白い鳥である。3つめの金は、金閣のイメージが強い。近年、話題の金運スポットである御金神社もある。最後の紫は、いかにも雅な京都らしいエリアカラー、この他、伝統京野菜の賀茂ナスや京山科ナスなどもある。この他、赤いものとして、伏見稲荷、八坂神社、平安神宮、下鴨神社などの神社、金時ニンジンなどがあるが、数的には少し足りないか。ということで、京都府の色として茶、白、金、紫の4色を採用しよう。

23) 滋賀県の色：赤

滋賀県の色は、赤である。たとえば、日本三大和牛の一つに数えられる近江牛の肉色であったり、秋の琵琶湖や東近江市の永源寺の美しい紅葉の景色が代表的なものである。また、毎年1月に守山市の勝部神社と住吉神社で行われる火祭りでも、赤白ふんどし一つの若衆が真っ赤に燃える大松明の回りを乱舞し、無病息災を祈るという祭りである。[地域資源創成学部3年K.Oさん]

教員によるコメント：学生が書いてくれたように、滋賀県の木は赤いモミジである。近江八幡の郷土食である赤コンニャクも地元でよく知られるが、その由来に派手好み、赤好みの織田信長の影響があるとか。今はなき安土城も天守が赤かった。江戸時代彦根を治めた井伊家の初代直正は、その強さから赤鬼と称されて畏れられた。井伊の赤備え、赤い軍団も著名である。神社としては、近江神宮の赤門も見事である。また、江戸時代、近江は、富山や大和などと並ぶ製薬業地であり、赤玉神教丸で知られる。赤カブ（万木カブ）の糠漬けも当地の名物である。赤以外の名産としては、フナズシが橙、ビワマスの身がサーモンピンク、信楽焼の著名なタヌキは、茶系であろうか。日本一の大湖琵琶湖が水色、琵琶湖の淡水真珠も白く輝く貴重な名産である。しかし、こうしてみても、やはり滋賀県を代表する色は赤であろう。

24) 三重県の色：赤、白、茶

三重県の色は、赤と白である。赤色のものとしては、三重県の魚にも指定されている生産日本一のイセエビや、日本三大和牛の一つに数えられる松阪牛、志摩地方の郷土料理で、カツオやマグロなど赤身の魚身を醤油ダレに漬けて、寿司飯と合わせる手こね寿司などがある。白色に関しては、伊勢神宮の参拝客が必ず食すると言われる伊勢うどんや志摩地方の冬の味覚であるありのりふぐ、鳥羽のカキなどがあげられる。[地域資源創成学部3年C.Fさん]

教員によるコメント：赤い名産もたくさんあげてくれたが、この他には松阪の伝統野菜である赤菜（ダイコンのような形の赤カブ）、伊勢の名物赤福は、赤心慶福（赤子のような気持ちで人の幸せを喜ぶ）の語からきてるとされる。白としては、上記以外に志摩の真珠、桑名のハマグリ、築城の名手藤堂高虎の手になる伊賀上野城も白い城である。この他の特産・名物・名所をあげるならば、まず、伊勢神宮があげられる。神宮の建築物は総じてシックな茶系、鎮守の森を形成する神宮スギ（三重県の木）、鳥居前町であるおはらい町も茶系の落ち着いた街並みである。志摩の特産であるアワビも茶系、四日市の土鍋や急須が著名な萬古焼も基本色は、紫泥（褐色）ということで茶系と言える。県の鳥に指定されているシロチドリは、頭や羽が茶、腹が白い。ということで、三重県の色は、学生があげてくれた赤、白に茶を加えた3色としよう。

25) 愛知県の色：茶、赤

愛知県の色は、茶色である。愛知県は、八丁味噌が有名で、味噌カツや味噌煮込みうどん、味噌おでん、土手焼きなど味噌を使った料理が多い。八丁味噌は、水分が少なく固いため、持ち運びが容易で、そのまま食べることができるという利点から兵糧として使われていた。高温多湿の岡崎地方では、発酵が進みやすいため、麦や米の麴を使わずに、豆麴でじっくり熟成させる。和食ブーム、健康ブームが浸透しつつある欧米でも、八丁味噌の需要が増えてきつつある。その他の名物である名古屋コーチンやういろ、手羽先なども茶系と言える。[地域資源創成学部3年K.Kさん]

教員によるコメント：茶色でうまくまとめてくれました。上記以外でも茶色系の特産、名物として、熱田神宮の本殿、きしめんにも茶色のたまり出汁を使うし、ひつまぶしも茶色いタレをまぶす。奥三河の郷土料理でもある五平餅もタレが茶色い。弥富の名産金魚にも茶系のものがある。瀬戸焼、常滑焼も釉薬を使うことで茶を始めとする多彩な色を使う（茶、黄、赤、緑、青）。県の鳥に指定されているコノハズクも茶色い羽を持つ。県の魚、クルマエビも、濃淡交互に並ぶ茶系のエビである。この他の色では、赤いものとして、大須観音や先述した弥富の金魚、瀬戸焼、常滑焼、伊勢湾や三河湾で獲れるワタリガニ、愛知県の本に指定されているハナノキも春に真っ赤な花を咲かせる。また、白いものとして、名古屋城や犬山城は、ともに白い城である。黄色いものとして、三河湾のアサリ（むき身は黄色がかった白）や日本一の生産を誇る食用菊などがある。この他、三河湾のノリ（黒）や名古屋城天守の金の鯨も著名である。こうしてみると、愛知県の名産も多彩であるが、中心は茶、後、加えるならば赤といったところであろう。

26) 静岡県の色：茶、赤、蒼（青緑）

静岡県の色は、蒼（あお、実際には緑に近い色）である。当県は、広大な山、海がもたらす豊かな自然をもとにした観光が盛んである。富士山や滝、水などの青、連なる山々や広大な茶畑からの緑が連想されるが、青や緑では、静岡県の広大で歴史にも根ざした深さを表現するには足りないと考え、蒼に辿り着いた。蒼は、草の青さを表現する言葉であり、青と緑の2色を同時に表現する色である。[地域資源創成学部3年 M.T さん]

教員によるコメント：静岡県のシンボルは、富士山であろうが、この色は山体の青と冬季冠雪の白であろうか。富士の麓には青木ヶ原の樹海の緑、白糸の滝もある。当県の特産、名物をあげていくと、まず、生産日本一のお茶があげられる。お茶が茶色なのか緑色なのか微妙であるが、ここでは茶としておこう。浜名湖のウナギも蒲焼き色の茶、浜松ギョウザ、静岡おでん、富士宮焼きそばも茶色であろうか。焼津のカツオブシも削ると茶色の薄片（節）になる。静岡県の花に指定されているツツジの代表色は赤であろう。久能山の有名な石垣イチゴも赤、生産日本一の花弁ガーベラも赤系の花、焼津や清水で水揚げされるマグロ、カツオ類は、いわゆる赤身の魚である。駿河湾特産のサクラエビも薄紅（赤系）、伊豆下田で水揚げが多いキンメダイも赤い水産物である。この他、静岡と言え、何と言ってもミカンの橙がある。Jリーグサッカーチーム清水エスパルスのチームカラーも橙である。一方、ジュビロ磐田は青系がチームカラーである。生産の多い緑のワサビや特徴的な黒はんぺんもある。こうしてみると、静岡県の色は、茶と赤の2色、それと学生が揚げてくれた蒼（青緑）も富士山の山体や樹海、洪積台地に広がる茶畑などを合わせた色として採用しよう。

27) 岐阜県の色：赤、白、茶

岐阜県の色は、緑、茶である。緑は、山に囲まれた内陸県であること、Jの下部リーグに所属するFC岐阜のチームカラーとして緑が使われていることなどがある。茶色は、栗や合掌造りの色からイメージした。[教育学部3年 Y.F さん]

教員によるコメント：学生による色のイメージが、かなり漠としていて捉えどころが難しい。もっと具体的な事物をあげてもらおうと、色もイメージしやすかったと考える。まず赤いものをあげる。岐阜県の花に指定されているレンゲソウが薄紅、飛騨の赤カブ、赤カブ漬、伝統玩具であるざるぼぼ、日本三大美祭の一つに数えられる高山祭（他に京都祇園祭、秩父夜祭り）の

屋台も、赤い幕などで飾られて街を曳き回される。岐阜県は、花類の生産も多く、シクラメンやバラ、ペゴニア、セントポーリアなども赤系の花々である。次いで白い名産、名物などをあげると、合掌造りの里白川郷は、やはり冬の雪景色が似合う。県の鳥に指定されているライチョウも冬は白い。恵那市山岡町は、日本一の白い細寒天の産地として知られる。岐阜城や郡上八幡城も白壁が際立つ白い建造物である。この他、茶系のものをあげると、学生があげてくれた合掌造りの民家の他、中山道の馬込宿の街並み、木質を活かした漆器である飛騨春慶塗、茶色いタレのかかった五平餅などがある。この他、名物の焼き物として、美濃焼の基本色が淡黄、黒、白、緑であり、多治見のカラータイルは、まさに多彩、長良川鵜飼の黒い鵜（海鵜）、銅色の関の刃物類など色々あげることができるが、やはり、岐阜県の色としては、赤、白、茶の3色をあげておこう。

28) 長野県の色：緑、白、赤、茶

長野県の色は、緑、白、赤の3色である。長野県の緑のものと言えば、漬け菜の大分を占め、生産日本一の野沢菜や、これも生産日本一のワサビ、Jリーグ松本山雅のチームカラーも緑である。白いものとしては、もともと米の代用食として小麦粉やそば粉で作った皮で具を包んで焼いたおやき（具は多彩だが、外見は白い）、スキー場が多い雪のイメージである。最後の赤は、生産の多いリンゴ、伊那高原の名物に成長しつつある赤ソバ（高峯ルビー種、もともとヒマラヤから種が持ち込まれた）、そして、歴史上名高い大坂の陣で活躍した真田信繁配下の赤備えもある。[教育学部3年 R.Hさん]

教員によるコメント：緑、白、赤でうまくまとめてくれた。長野県は、高原野菜の大産地であり、緑系の野菜類、例えばレタス、セロリ、ズッキーニ、ハクサイ、アスパラガスなど日本有数の生産を誇っている。白いものとして、上記以外にソバの白い花、県の鳥に指定されているライチョウ、県の木に指定されているシラカバ、また、キノコ類の生産も多く、エノキダケやエリンギも白系の産物と言えるであろう。赤い産物では、これも生産が日本有数の花卉類、カーネーションやアルストロメリアも多彩ではあるが、メインカラーは赤であろう。ワイン生産では、1位が山梨県で長野県は2位となっているが、こと赤ワインに限ると、長野県が日本一である¹¹⁾。桜肉とも称される馬肉の生産・消費も多い。この3色以外で、多く出てくる色が茶色である。名物の五平餅や佐久鯉のうま煮、ザザムシの佃煮、信州味噌、ソバも打った麺は薄茶色、ブナシメジもある。名所として著名な善光寺、諏訪大社なども茶系の建造物である。こうしてみると、長野県の色は、緑、白、赤、茶の4色としておこう。

29) 山梨県の色：紫、赤

山梨県の色は、紫と桃である。山梨県は、比較的乾燥した扇状地地形と内陸盆地性の気候を生かした果樹栽培、特にブドウやモモの生産が盛んである。[地域資源創成学部3年 A.Eさん]

教員によるコメント：ブドウの紫は、確かに印象が強い。この他、もともと当県は、水晶の産地で紫水晶も美しい。伝統の革製品である甲州印伝は、赤、黒、紺、紫、茶などシックな色合いが特徴である。河口湖畔大石公園の夏のラベンダーもある。山梨県といえば、ブドウを原料とするワインの大産地でもあり、赤と白（透明）双方が揃う。果樹生産の多い当県では、赤いサクランボも多い。また、山梨県の木に指定されているカエデも赤い。歴史的に戦国最強と称された武田軍団は、元祖赤備え（赤い甲冑）で、敵から恐れられた。日蓮宗の総本山である

身延山久遠寺も本堂や五重塔が赤い。この他、名物のほうとうは、太い麺や具を味噌仕立てで作る茶色い名物である。また、内陸ではあるが、アワビの煮貝も茶色い当地名産となっている。桃色も、モモや県の花に指定されているフジサクラがあるが、数的にやや少ないか。シンボルである富士山冠雪の白などもあるが、やはり、山梨県の色としては、紫と赤をあげたい。

30) 福井県の色：白，赤，茶

福井県の色は、青，赤，白の3色である。青は、越前海岸の海，九頭竜ダムの水のイメージである。赤は、冬の名物である越前ガニ，赤カブの色，白は冬の雪景色，冬に咲くスイセンのイメージである。[教育学部3年 K.I さん]

教員によるコメント：福井県の花に指定されているスイセンに関して越前海岸は日本水仙三大群生地（他に淡路島，南房総）の一つに数えられ，冬に白と黄の花が咲き誇る。他に現在日本で最も生産の多い米の品種であるコシヒカリの発祥地であること，生産日本一の手漉き和紙，北前船で運ばれてきた敦賀名産のおぼろコンブに，色の上で白と黒が存在すること，伝統の絹織物羽二重と，関連する銘菓羽二重餅も基本色は白であろうか。赤い名産として，上記の越前ガニは，県の魚に指定されている名物である。この他，越のルビーのブランド名がついたトマト，敦賀の氣比神宮も赤い建造物，同じく敦賀には国の有形文化財に指定された赤レンガ館もある。若狭の名産，ぐじ（アマダイ）は，薄紅色の高級魚である。濃い茶系の名物，名産も多い。もともと仏教に関わる精進料理の食材として使われ，現在でも日本一の消費を誇る油揚げは薄茶，県の鳥に指定されているツグミも茶系の鳥，名物越前ソバも薄茶系か。これも若狭が有名なサバなどの糠漬であるへしこ，敦賀の銘菓求肥昆布，おおい町他のとち餅，自然釉の越前焼も基本色は茶色であろう。永平寺や丸岡城も茶系の建造物と言える。この他，越前市旧武生の打刃物は鋼色（銀），東尋坊の見事な安山岩柱状節理は灰色系，冬食の銘菓として知られる水羊羹は薄紫（小豆色）など色々あるが，福井県の色としては，白，赤，茶の3色を採用しよう。

31) 石川県の色：赤，黒，白

石川県の色は，金，朱（古代朱），黒（漆黒）の3色である。金は，伝統工芸品である金箔（金沢箔）の色，朱色，および黒は，これも伝統の輪島塗からイメージした。[地域資源創成学部3年 M.K さん]

教員によるコメント：石川県の赤いものとしてイメージされるのは，上記以外では冬のズワイガニ，甘エビ，兼六園の紅葉，当県特産のブドウ品種であるルビーロマンといったところであろうか。黒としては，県の花に指定されているクロユリ，県の鳥であるイヌワシも黒褐色の鳥である。残りの金色，確かに金箔は有名であるが，1品だけというのは少し弱い。北陸のイメージで言うと，やはり冬の雪に象徴される白がピックアップされるであろう。県のシンボル，かつ信仰の山でもある白山，兼六園の冬の雪吊りの景観，金沢城も白い城である。また，伝統のかぶら寿司は，かぶらにブリの身を挟んで発酵させた白系のなれずしである。なお，これも500年の伝統を持つとされる加賀友禅で使われる基本色は，‘加賀五彩’と称される大きな枠組みで言うと，青，赤，黄，緑，紫の5色である。同5色は，また，九谷焼の彩色においても，基本色となっている。こうしてみると，様々な特徴的な色が展開する本県であるが，五彩のうちの赤に加えて黒と白の3色を県の色としよう。

32) 富山県の色：白, 桃, 茶

富山県の色は、雪の白とホタルイカ発光色の水色である。[地域資源創成学部3年 Y.S さん]
教員によるコメント：富山県は、確かに白い。立山連峰の雪景色が、きわめて象徴的であるし、県の魚にも指定されている特産の白エビ、氷見うどんも白、日本一の水田単作地帯である富山平野で作られる米（おもにコシヒカリ）も白、県の鳥である雷鳥も冬は白い。なお、県の花に指定されているチューリップは花色多彩であり、おもには白、赤、桃、黄、橙、紫、緑、茶、黒の9色であるという。なお、白エビは、透き通った白地に薄紅の斑点を持ち「富山湾の宝石」と称されている。著名なマス寿司も寿司飯を覆うマスの身は薄紅（桃）色である。もう一つの県の魚、寒ブリも著名であるが、ブリ刺しも薄紅（桃）色であろうか。この他、薬売りで有名な越中富山の反魂丹は茶色の丸薬である。これも県の魚に指定されているホタルイカの塩辛も茶色である。富山で昔から蝦夷地から北前船で持ち込まれる身欠きニシンの昆布巻き、ブリの昆布締めなどコンブが郷土料理としてよく使われる。コンブは、深緑がかった茶色の海藻である。伝統工芸として著名な井波の彫刻も木肌色（薄茶色）が基本色であろう。以上、取りまとめると、富山県の色は、白、桃、茶の3色となる。

33) 新潟県の色：白, 赤

新潟県の色は、白、赤、青をあげることができる。当県は、山間部を中心に世界最大級の豪雪地帯であり、1晩で1m、1週間で6mもの積雪があり、ウインタースポーツも盛んな地域なので、白がまず浮かぶ。ブランド米コシヒカリに代表される生産日本一の米も白である。赤は、特産のズワイガニ、ベニズワイガニや十日町市の越後妻有雪花火の色、津南雪祭りの際に空に舞い上がるランタンの色である。青は、日本海の海の色から採用した。[地域資源創成学部3年 T.N さん]

教員によるコメント：白と赤は納得がいくが、日本海の青は、新潟県に限ったものではないので省くことにする。上記の他、当県は、主原料となる水よし米よしで有名な清酒処でもあり、県酒造組合傘下の酒蔵が89もある¹²⁾。清酒は、透明ないし、薄黄色であるが、醗の段階ではもちろん白い。県の草花に指定されている雪割草は白、県の観賞魚、日本一の生産をあげる錦鯉は、小千谷市山古志が中心的生産地であり、基本色が赤、白、黒である。次に、錦鯉繋がり赤いものをあげていくと、学生があげてくれたもの以外に、県の木に指定されている雪椿や南蛮エビ、サケの身、村上のはらこ、県の鳥に指定されている朱鷺も薄紅色である。なお、県の花に指定されている新潟市、五泉市などで生産日本一を誇るチューリップは花色多彩であり、おもには白、赤、桃、黄、橙、紫、緑、茶、黒の9色あるという。以上のことから、新潟県の色は、めでたい白と赤としよう。

34) 神奈川県の色：赤, 白, 青

神奈川県の色は、黒、赤、白の3色があげられる。黒系の名物としては、横浜や工場地帯の夜景、横須賀の米軍基地に配備されている艦隊がある。赤系としては、中華街、赤レンガ倉庫、秦野のカーネーションなどがある。白系としては、湘南のシラス、小田原カマボコ、シユウマイ、肉まんなどが有名である。[地域資源創成学部3年 S.K さん]

教員によるコメント：神奈川県を象徴する色として、まず、赤いものをあげると、横浜中華街、横浜港の観光スポットになっている赤レンガ倉庫、鎌倉鶴岡八幡宮の社殿、伝統の鎌倉彫、秋

の箱根の紅葉も見事である。秦野でおもに栽培されるカーネーションや、三崎漁港のマグロ赤身料理もある。一方、白いものをあげると、横浜のシウマイや肉まん、小田原カマボコ、湘南シラス、三浦ダイコンなど美味しいものが並ぶ。この他、神奈川県の花に指定されているヤマユリ、県の鳥カモメも白系、再建された小田原城も白い城である。神奈川県には海、港のイメージからくる青も多い。プロ野球横浜ベイスターズのチームカラーが青であるし、Jリーグの横浜Fマリノスが青、白、赤、川崎フロンターレが水色、黒、白、横浜FCが白、水色、青、湘南ベルマーレが緑、青、白と言うことで、全てに青系が入っている。海水浴やサーフィンでも名高い湘南海岸や、箱根芦ノ湖の湖面も青い。と言うことで、神奈川県の色は、赤、白、青の3色としよう。

35) 東京都の色：赤，茶，灰

東京都の色は、赤、水色、灰色、黄の4色である。赤の名所として、東京タワーや赤レンガ造りの東京駅がある。水色には、東京スカイツリーがある。多くのビル群、都会の人は冷たいといった大都会東京のイメージカラーとして、モノトーンの灰色が浮かぶ。最後の黄は、ライトの色でもある。夜でも明るく眠らない町、また、東京都のマークであるイチヨウの色でもある。[教育学部3年 T.M さん]

教員によるコメント：学生があげてくれたものの他、東京都の赤いものとして、浅草寺や増上寺、寛永寺といった著名な寺が赤系の本堂を持つ。また、江戸切子の基本色は、赤（銅赤色）と青（瑠璃色）、江戸川特産の金魚も基本色は、赤と白であろう。東京都の花に指定されているソメイヨシノは、薄紅色である。スカイツリーを水色の例としてあげてくれているが、この塔は、スカイツリーホワイト、つまり白い塔である。伝統野菜として知られる長大な練馬ダイコンも白い。この他の名物として佃島の佃煮、八丈島などのくさやの干物、人形焼き、もんじゃ焼きは、茶系であろうか。明治神宮も茶系の建造物である。薄茶（黄）として、伊豆大島の椿油、雷おこしもある。この他、現在生産はないものの大田区大森に問屋が多く集まるノリ（浅草ノリ）が黒の産物であろうか。東京都は、農業は盛んとは言えないが、ブルーベリー（青紫色）の生産が日本一である。こうしてみると、東京都の色は、赤、茶に加えて、林立するビル群と排気ガスなどによって遠方の景色が霞む都会イメージの灰色の3色としよう。

36) 千葉県の色：緑，黄，白，赤

千葉県の色として白と薄黄土色をあげる。白系のものとして、カモメ、千葉のブランド米である多古米、房総の「白い鯖」、ホンビノス貝、千葉ロッテマリーンズのキャラクターも白系のカモメをイメージしている。薄黄土色としては、特産の落花生や九十九里浜の砂浜、シンデレラ城、ハマグリなどがある。[地域資源創成学部3年 K.Y さん]

教員によるコメント：千葉県は、東京市場を目指す近郊農業の大産地である。しかも、常総台地（洪積台地）が広がる地形条件も、畑地農業の展開に有利に働いた。日本有数の生産を誇る緑系の野菜として、ハウレンソウ、ネギ（おもに食するのは白い部分）、サヤインゲン、エダマメ、キャベツ、シュンギク、ソラマメ、ナバナ（菜の花）、シロウリなどがあげられる。また、黄系の産物として、ラッカセイ、サツマイモ、トウモロコシ、ヒマワリなどの生産も多い。千葉の花とされる菜の花、スイセンも日本三大産地（他に兵庫県淡路島、福井県越前海岸）に数えられる白と黄の花である。学生があげてくれた九十九里浜の砂の色でもある。白

系の産物としては、ダイコン、先述のネギ、カブ、ナシ、マッシュルームなどがある。この他の白いものとして、千葉ロッテマリーンズのキャラクターにもなっているカモメや船橋、市川沖で獲れる大型のホンビノス貝もある。赤系のものとしては、スイカ、ニンジン、キンメダイといった産物の他、千葉県のマスコットキャラクターであるチーバ君も赤い。銚子や野田で多く生産される醤油もできあがり時には赤、酸素に触れると黒に変わる。鴨川市付近の海岸で採れるヒジキも黒い。その他、プロスポーツ球団である千葉ロッテマリーンズのチームカラーも赤、Jリーグ、ジェフユナイテッド千葉が、黄、緑、赤、柏レイソルが黄となっている。と言うことで、千葉県の色は、緑、黄、白、赤の4色としよう。

37) 埼玉県の色：緑、白

埼玉県の色は、緑と赤である。埼玉県の緑のものとしては、秩父山地などの豊かな緑の山々、特産品である深谷ネギなどの農産物があげられる。また、赤いものとしては、夏の酷暑が有名で真っ赤に燃える太陽のイメージ、Jリーグ浦和レッズのチームカラーが赤であるからこの2色とした。[教育学部3年 T.M さん]

教員によるコメント：埼玉県の色の特産物としては、学生があげてくれた深谷ネギだけでなく、狭山茶や、東京市場への近郊農業の産物として日本有数の生産量を誇るコマツナ、ブロッコリー、ホウレンソウ、キュウリなどがある。また、県の蝶に指定されているミドリシジミもある。農産物としては、白系のカブ、切り花として出荷されるユリの生産も多い。県の鳥に指定されているシラコバト、生産日本一の行田の足袋も、最近は多彩な色物が出てきているが、基本色は白であろう。岩槻、鴻巣で生産が多いひな人形は、お内裏様とお雛様で白、赤のイメージ色であろうか。当県から隣の群馬県にかけては、小麦粉食が盛んで、埼玉県は、うどんの生産量が香川県に次ぐ2位となっているというように白系の産物も多い。学生が赤としてあげてくれた浦和レッズの他赤いものとして、先述のひな人形の他、長瀨に代表される紅葉の名所がある。2016年にユネスコ無形文化遺産に選定された橙色に提灯が輝く秩父夜祭、Jリーグ大宮アルディージャのチームカラーも橙である。茶系の食べ物として、鍋物である煮ほうとう、草加せんべい、全国有数の生産を誇るサトイモがある。また、晴天日数が日本一を数えるということで空の青、赤城乳業のガリガリ君も多彩であるが、基本色は、ソーダ味の青であろうか。伝統工業としての、川口の鋳物産業も名高い。鋳物は黒い名産品であろうか。こうしてみると、埼玉県の色は実に多彩であるが、その中でも特徴的な色として、緑と白の2色としたい。

38) 群馬県の色：緑、茶、赤、白

群馬県の色は、緑と茶である。緑のものとして、内陸で緑の木々で覆われた山々の広がり、高原野菜の産地で全国一の生産を誇るキャベツの他、キュウリ、枝豆、フキ、ハクサイ、ホウレンソウ、レタスなど緑の野菜生産が多いこと、下仁田ネギという伝統野菜がある（ただし、食用にされるのは緑の部分ではなく、白い茎の部分）。また、名物焼きまんじゅうや特産のコンニャクは茶系であるし、世界遺産の富岡製糸場も茶色いレンガ造りの建造物である。[教育学部3年 Y.K さん]

教員によるコメント：群馬県は、確かに緑と茶に特徴がある。茶色いものとして、郷土料理の鍋であるおつきりこみ、温泉水を使う磯部せんべい、温泉饅頭発祥の地とされる伊香保温泉の饅頭も茶色、味噌パンやら日本一高い県庁舎の壁面も薄茶色である。群馬県は、平野が少なく、

もともと小麦食の盛んな土地柄である。先述の饅頭系やおつきりこみもそうであるが、水沢うどんや桐生のひもかわうどんなど白い粉食物も多い。白と言えば、現在でも繭の生産日本一であるし、秋間・榛名・箕郷の三大梅林の白梅、紅梅も見事である。ちなみに、群馬県は、梅実の産地でもあり、赤い梅干しや梅酒も多い。この他、赤いものとして、先述の紅梅の他、有名な高崎ダルマ、同じ高崎の少林山達磨寺の紅葉も美しい。上野国一の宮貫前神社も赤い神社である。その他、青緑色の美しい湖である白根山の火口湖湯釜なども個性的な色である。こうしてみると、群馬県の色は、3色までとせず、緑、茶、赤、白の4色としたい。

39) 栃木県の色：赤，金，茶

栃木県は、イチゴの生産量が1968年より全国1位を続けており、とちおとめ、スカイベリー、とちひめという全国的にも有名なブランドがある。県でも「いちご王国とちぎ」を名乗っている。「栃木県いちご研究所」があり、品種開発、収穫量や品質の向上に向けた研究が行われている。ということで、イチゴの赤を採用した。金色の選定理由は、観光スポットとして有名で世界文化遺産にも登録されている日光東照宮の外観が金色のためである。なお、ここは、金閣、中尊寺金色堂と並ぶ日本三大金色堂と言われる。[地域資源創成学部3年R.Mさん]

教員によるコメント：数的には少ないが、イチゴの赤と東照宮の金は、栃木の色として強烈なインパクトがある。この他の特産物をあげるならば、宇都宮ギョウザやカンピョウが著名であろうか。ギョウザはきつね色（茶系）、カンピョウは白いが、戻して使うとやはり茶系になる。郷土料理で新巻鮭の残りを使うしもつかれも赤茶系の料理である。益子焼の基本色は、黒、茶とされる。また、那須街道では、景観形成・維持のために条例によって屋外看板は茶地に白文字という規制がある¹³⁾。とすることで、栃木県の色は、赤、金、茶の3色としておこう。

40) 茨城県の色：赤，白，黄，緑

茨城県の色は、赤と黄である。茨城県の赤いものとしては、バラ、水戸偕楽園の紅梅、蒸しダゴの生産が多いなどがある。また黄色のものとしては、日本一の生産をあげる干しイモ、これも生産日本一を誇るビール、ちょっと茶色がかかった黄土色ではあるが、やはり生産日本一の納豆、そして極めつけのとりは、水戸黄門様の存在であろう。[教育学部3年C.Nさん]

教員によるコメント：常陸国風土記より、この地の土豪を大和朝廷が攻めた際に、いばらの城を築いて退治した等の由来から地名がきているとのこと、この時代のノイバラの花は白であろう。ただ、茨城県の花に指定されているバラのイメージカラーは赤であり、神話とは違っている。ウメで有名な偕楽園には六名木として、紅の江南所無、柳川枝垂、烈公梅、白の白難波、月影、虎の尾の赤白3種ずつが指定されている。こうしてみると、茨城県の名物には、白と赤双方が揃っている。この他の赤いものとして、赤ネギ‘ひたち紅っこ’や、国営ひたち海浜公園に多く植えられている秋の紅葉が美しいコキア、大子町の永源寺も、もみじ寺と称される紅葉の名所である。また、サッカーJリーグ鹿島アントラーズのチームカラーも赤である。次いで、白い名物として、県の魚に指定されている白身魚のヒラメや霞ヶ浦の伝統漁船である帆引き船、生産日本一の淡水真珠などがある。なお、黄色いものとしては、学生があげてくれたものの他に、日本一の生産を誇る鶏卵も黄身が該当する。茨城県には常陸台地に広大な畑地が展開すること、東京市場に近いことから近郊農業が盛んであり、日本一の生産をあげている野菜類が多い。その中でもハクサイ、レンコン、カリフラワーは白い野菜と言えらるであろうか。緑

の野菜で生産日本一をあげると、レタス、夏ネギ（白と緑）、ミズナ、チンゲンサイ、コマツナ、ピーマン、メロン（中が黄、外が緑）などがある。先述のコキアも、夏には緑色が美しい。こうしてみると、茨城県の色は、赤と白はよしとして、黄と緑が非常に微妙である。そこで、ここでも3色限定という原則からはずれるが、茨城県の色を赤、白、黄、緑の4色としよう。

41) 福島県の色：赤、白、黄

福島県の色は、赤と白である。赤いものとしては、日本固有のベリーで、夏に紅葉するナツハゼがある。ただし、食用となる実は黒く熟すが、これの市場出荷は、統計上福島県のみとなっている。モモやネクタリンなど外皮が紅系の果実も、ともに生産が2位と健闘している。リンゴも3位と生産が多い。一方、白としては白河の関や同じ白河のうどん、そば、幕末会津藩の白虎隊などが、よく知られている。[教育学部3年 R.F さん]

教員によるコメント：福島県の色については、福島県印刷工業組合が選定した「ふくしまのいろ」14色とその根拠をあげてみる¹⁴⁾。すなわち、1. 鶴ヶ城（会津若松市）白壁と赤瓦（ここでのイメージ色は赤）、2. 滝桜（三春町）薄紅、3. モモ（福島市）桃色、4. 白河ダルマ（白河市）赤、5. あんぽ柿（伊達市）橙、6. 大内宿（下郷町）黄土色、7. 新宮熊野神社長床（喜多方市）黄葉のイチョウ黄、8. 凍み豆腐（福島市）白ないし薄黄、9. モリアオガエル（川内村）緑、10. 岩瀬キュウリ（須賀川市）緑、11. 大堀相馬焼青磁（浪江町）青緑、12. 猪苗代湖（猪苗代町・郡山市・会津若松市）青、13. 塩屋埼灯台（いわき市）白、14. 石炭（いわき市、常磐炭鉱）黒の14色である⁸⁾。これらの色分けとして、学生があげてくれた赤系のものが1～5、白関連が8、13、この他黄系（6、7、8）、緑系（9、10）、青系（11、12）、黒となっている。これ以外のものをあげると、農業生産上の主要作物であるトマトが赤、会津の代表的な民芸品赤べこも赤、福島県の花に指定されているネモトシャクナゲが白、薄紅色である。東北地方でも、福島県沿海部（浜通り）では、冬でも雪が少ないが、西の山間部である会津地方は豪雪地ということで、雪の白もある。県の鳥キビタキが黄系、伝統の会津漆器の基本色が赤と黒であろうか。こうしてみると、福島県の色は、赤、白、黄の3色としよう。

42) 山形県の色：白、赤、茶

山形県の色は、青、白、赤の3色である。県の旗が、青地に白い三角3つ、山形県の山々を中央の三つの三角形で表すと同時に最上川の流れも表している。山形県は山の国であり、深い山々と豊かにたたえる水が溪谷と230もの滝を形作っている。また、山形県と言えばサクランボ、佐藤錦や紅秀峰といった品種があり、日本一の生産を誇っている。[教育学部3年 K.M さん]

教員によるコメント：山形も雪が深い白のイメージ、他に庄内米、生産日本一のラフランス（西洋梨）、上山市に多い干し柿は、茶色地に白い粉をふいたものでしょうか。学生があげてくれた多くの滝も水しぶきが白。赤い特産としては、学生があげてくれたサクランボ（山形県の木に指定）の印象が強いが、黄色い花を赤い染料として使う山形県の花に指定されている紅花も名高い。東北地方の山々は、落葉広葉樹に覆われ、秋の紅葉が美しい。特に山形の宝珠山立石寺は、紅葉の名所として著名である。最後のもう1色であるが、青の特産、名物、名所等は見当たらなかった。山形県の名物と言えば、天童の将棋の駒、これは木地から茶系の産物であろうか。芋煮会も有名であるが、芋煮、初期にはサトイモと棒ダラを使っていた。現在は、地域によって食材が違うが、肉、ジャガイモ、ニンジン、ダイコン、ネギ、コンニャクなどを

味噌や醤油仕立てで作る鍋であり、全体としての色味は、やはり茶系であろうか。銘菓くぢら餅や玉コンニャクも茶系、先述の干し柿も茶色い産物であろう。その他、緑で山を覆うブナ林、緑のただち豆（枝豆）もあるが、山形県の色は、白、赤、茶の3色としよう。

43) 秋田県の色：白、茶

秋田県の色は、白である。秋田県は、日本有数の豪雪地帯であり、冬になると県全体が白い雪に覆われる。日照時間も短く色白の秋田美人も有名である。食べ物として、米が都道府県別で第3位の大産地、八幡平の絞りダイコン、郷土食、保存食でもあるなれずしのハタハタ寿司、ハタハタに白ネギ、ハクサイなどを多く使うしょつつる鍋、にかほ市象潟町の岩ガキ、300年以上の歴史を持つといわれる稲庭うどん、きりたんぼなど主要なものが白色をしている。[地域資源創成学部3年 H.T さん]

教員によるコメント：白色でうまくまとめてくれました。雪の関係で言うと、横手のかまくらも風物詩である。学生もあげてくれているが、あきたこまちに代表される米が都道府県別第3位の大産地であるし、米を使うきりたんぼ、俗に日本三大うどんに数えられる稲庭うどん、生産の多い八郎潟などのシラウオ、八幡平（松館）の絞りダイコン、にかほ市象潟町の岩ガキ、なれずしであるハタハタずしは、米の白、ニンジンの赤、ハタハタの茶が混ざる伝統食である。また、秋田県は、一大酒処でもある。清酒は、透明ないし薄黄であるが、醪の状態ではもちろん白い。この他では、県の木に指定されている秋田スギ、同じく県の鳥であるヤマドリ、干しダイコンのいぶりがっこ、比内地鶏、大館を中心に生産される‘畑のキャビア’と称されるとんぶり、同じく大館の伝統工芸品である曲げわっぱ、能代春景塗など茶系の特産品も多い。また、緑系のもものとして、世界自然遺産である白神山地のブナ林、伝統野菜の高さ2mにもなる秋田フキ、ぬなわ（ジュンサイ）など、赤系として白神山地他多くの紅葉の名所があるし、男鹿半島のなまはげにも顔が赤（爺さん）、青（婆さん）がある。青で言うと、田沢湖の青い湖面も美しい。その他、県の花に指定されているフキノトウが黄、秋田市の夏祭りとしてたくさんの提灯が橙色に輝く竿燈祭りも著名である。秋田県は、鉱業が盛んであったこともあり、銀線細工など銀色の工芸品もある。以上、秋田県の色も多様であるが、地域の特徴を示す色として、白と茶をあげたい。

44) 宮城県の色：赤、白、茶、緑

宮城県の色は、以下の6色ある。1.黄緑色は、名物ずんだ餅や名取のセリの色である。2.深緑色は、沿岸で生産されるワカメがある。3.赤色の畜水産物として、有名な牛タンや、捕鯨基地である石巻市鮎川で水揚げされるクジラ赤身肉、ホヤなどがある。4.白は、これも著名な笹カマボコであったり、松島湾で生産されるカキの色である。5.茶色は、伝統菓子であるくるめゆべしや仙台味噌、県の獣である鹿の色である。6.銀色は、女川町で有名な養殖銀鮭の色である。[地域資源創成学部3年 N.H さん]

教員によるコメント：よく調べられているが、6色は多いので絞る必要がある。仙台のような大都市を有する宮城県は、人も色も実際多様、多彩である。仙台の七夕では、赤、黄、緑、青、紫など実に多彩な飾りがたなびき、宮城県の多彩さを象徴するようである。当県の名所、名物、特産などを色別にあげる。まず、赤いものとして、全国鹽竈神社の総本山であり陸奥国一の宮でもある鹽竈神社の社殿や、鳴子峡などの秋の紅葉がある。また、学生があげてくれた牛タンや、

捕鯨基地である石巻市鮎川で水揚げされるクジラ赤身肉もある。海産物のホヤも赤いし、鳴子のこけしも、木地にいろんな色を使うが、基本色は赤である。仙台味噌も赤味噌に入るし、くるめゆべしも赤系の菓子、銀鮭の切り身も赤系である。宮城県の花に指定されているミヤギノハギは、赤紫や白の花をつける。白いものをあげると、これも学生があげてくれた名物笹カマボコや松島湾のカキ、また、有数の生産を誇るヒラメは、外見が茶色の白身魚である。宮城県は、ササニシキやひとめぼれなどブランドの白い米が生まれた地でもある。これに、温麺、和紙、葛、総称して‘白石三白’と言われる名物も加わる。この他、茶色のものをあげると、先述のヒラメ、宮城県の花に指定されているガンや同じく県の獣のシカも茶系の動物である。岩手県に次ぐ生産をあげているワカメも、茶色い海藻である。これも学生があげてくれたくるめゆべしや先述した仙台味噌も茶系の赤い名物でもある。緑色の名物にずんだ餅、茹でワカメ、‘杜の都’のシンボリックな仙台定禅寺通のケヤキ並木、城のあった青葉山も緑に因む地名であろう。山形県との県境にある蔵王のお釜も、見事なエメラルドグリーン火口の火口湖である。他に気仙沼の黄色いフカヒレや雄勝町の黒い硯などもよく知られるところである。こうしてみると、宮城県の色は、赤と白、これに数的には減るが、印象度の強い色として茶と緑を加えた4色としよう。

45) 岩手県の色：黒、茶

東北地方というと、歴史的には仙台藩の伊達政宗に代表される質実剛健のイメージが強い。岩手県の代表的産物とその色として南部鉄器の黒、日本一の生産量を誇る木炭、秀衡塗の赤と黒などがあげられる。ということで、当県の色は黒とした。[地域資源創成学部3年RSさん]

教員によるコメント：確かに当県の色は、質実剛健の黒のイメージが強い。この他の黒としては、生産量が北海道に次ぐコンブ、一関の亀の子せんべいなど黒ごまを使った菓子類、黒平豆、黒小豆など黒が多い。岩手県の花に指定されているキジも黒、茶系の鳥である。また、漆の生産も多く、伝統の秀衡塗は、黒、赤地に金の蒔絵が見事である。黒以外の産物としては、生産が全国一のワカメがある。ワカメは海中では茶、煮ると緑、煮込んでいくとまた茶色になる海藻である。同じく生産の多いアワビも茶系、わんこそば、南部せんべいなども薄茶、郷土料理であるひつつみ（小麦粉を練ったものをちぎり入れ、野菜などを使う鍋）も総じて茶系、先述のキジ、それから県の木である南部アカマツを含め、茶系も多く出てくる。この他に、県の花に指定されているキリの花や、生産日本一のリンドウの紫、世界文化遺産である中尊寺金色堂の金色、岩手県の推奨米として2017年に栽培が始まった「金色の風」もある。こうしてみると、岩手県の色は、紫も捨てがたいが、量・質ともに充実した黒と茶に、インパクトの強い金の3色としておこう。

46) 青森県の色：赤、白

青森県と言えばリンゴが有名であり、他の果物や野菜などでも赤いものが多かった。また、観光名所として自然の風景を楽しむような場所が多く、若葉や紅葉、雪山など四季折々の風景を楽しめる。当県は、本州最北端ということもあり、雪山の白のイメージが強いと考えたが、観光名所として、秋の紅葉押しのところが多い。ということで、県の色を赤とした。[地域資源創成学部3年KSさん]

教員によるコメント：青森県は、奥入瀬渓谷や八甲田山の紅葉や日本一の生産を誇るリンゴ、有名な大間のマグロも赤身の魚、特産のスジコやホヤも赤、津軽国一の宮である岩木山神社も

赤い神社ということで、赤の印象が強い。一方で、学生が書いてくれているように、雪も冬の重要な景観色である。当県の特産品をみても、ニンニクや長イモ、ホタテ、スルメイカも新鮮なうちは茶系、時間がたつと白く変わる他、県の鳥に指定され、冬にシベリアから渡ってくるハクチョウなど白の産物も多い。夏に咲くリンゴの花は薄紅色ということで白と赤の融合色であろうか。ということで、当県の色として、赤と白の2つを選択しよう。

47) 北海道の色：赤，黄，白

北海道の特産品として、毛ガニや花咲ガニ、秋鮭の肉色、いくらなどより赤、酪農が盛んでホルスタインやヒグマの黒があげられる。黄色は、ジャガイモ、チーズ、トウモロコシ、タマネギから、紫はブドウとワイン、北海道は、日本有数のワイン産地でもある。黄緑は、夕張メロン、茶は、エゾシカ、道産子、キタキツネなどのイメージ色である。以上、赤、黒、黄、紫、黄緑、茶の6色を選択した。[地域資源創成学部3年 H.K さん]

教員によるコメント：北海道は、自然や農産物に恵まれた多彩な地域である。学生があげてくれたものの中で、ホルスタインは、黒と白ということになろう。また、夕張メロンは、食味部分は黄であろう。ただ、あげてくれた6色は、多すぎるのであえて3色までに絞るとすれば、例に多く出てきた赤と黄、残るは長い冬の期間に大地を埋め尽くす雪の白を選択したい。なお、色の例を捕捉するならば、赤のものとして小豆、道の花に指定されているハマナス、黄のものとしてビールやバター、札幌ラーメン、白のものとして、道の鳥に指定されているタンチョウヅル、牛乳、生産が都道府県別で2位の米、甜菜糖、ホタテ貝、銘菓白い恋人などがあげられよう。

4. 終わりに

以上、学生がまとめてくれた授業レポートをもとに、全都道府県について、それぞれの特徴的事物の色を取り上げることで、地域の地理的特性をエリアカラーで表現するという試論を進めてきた。その結果、47の各都道府県において採用された色は、のべ133色になった。それらの色の内訳をみると、白（計35、採用色全体の26.3%）は、北国の雪や全国に展開する白系野菜、九州の白砂糖や火山灰のシラスなどであった。これに次ぐ赤（計33、同24.8%）は、各地の神社などの神聖な建物であったり情熱や強さを表す旗印であったりした。この2色は、まさに日本の国旗である日の丸の色であり、日本の地理的環境を象徴する色であることがわかる。これらに次ぐのが茶色（計24、同18.1%）であり、各地木造の古い建造物やおいしさを誘う郷土料理に多く出てくる色であった。さらに、緑（蒼を含む。計10、7.5%）は、降水が豊かで、かつ山の多い日本の自然を表す色、また、都市近郊農業で生産が盛んな緑色野菜の色であった。黄（計9、6.8%）も、各地の産物の色であった。黒（計8、6.0%）は、九州に卓越する産物や質実剛健の地域住民性を象徴する色でもあった。この他、桃（計4）、金（3）、紫、橙、

第2表 都道府県の特徴色

各都道府県の 象徴色	数	割合
白	35	26.3%
赤	33	24.8%
茶	24	18.1%
緑	10	7.5%
黄	9	6.8%
黒	8	6.0%
桃	4	3.0%
橙	3	2.3%
紫	2	1.5%
青	2	1.5%
金	2	1.5%
灰	1	0.8%
計	133	

青（各2）、灰（1）という内訳となった。

なお、地域の色を選定するに当たっては、一般に客観的にみて評価が高いと思われる地域の特徴的事物（名産、特産、名物、その他の自然的事物、建造物などの人文的事物）を取り上げて、それらの色を比較していく中で、地域そのものを特徴付ける色の抽出に努めた。しかし、取り上げた事物の選定に、多少なりとも筆者の関心に基づく恣意性がなかったかどうか、いささか心許ないところはある。その点でも本稿はあくまで試論であり、各界の批判をいただきながら、より内容的な精度を上げていきたいと考えている。その点で、読者の方々の忌憚のないご意見を期待したい。また、こういったエリアカラーをあらためて世に出すことで、地域おこし、活性化に寄与する方策も色々とあろうが、この点については別稿に譲りたい。

注・文献

- 1) 宮崎県（2020）：「宮崎県の紹介」, <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kohosenryaku/kense/koho/symbol.html>.
- 2) 鹿児島県（2020）：「鹿児島のシンボル」, <https://www.pref.kagoshima.jp/pr/gaiyou/symbol/index.html>.
- 3) 熊本県（2020）：「熊本のシンボル」, https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_3207.html.
- 4) さいたま市（2020）：「区の色・区の花」, <https://www.city.saitama.jp/006/007/016/002/index.html>.
- 5) 古く Paul Fickeler は、文化としての宗教景観の色について言及しているし、下津や戸所は、京都市における色文化の伝統性とその変化について明らかにしている。Paul Fickeler（1962）：Fundamental Questions in the Geography of Religions. Readings in Cultural Geography. ed. Philip L. Wagner and Marvin W. Mikesell, pp.94-117. 下津光保子（1978）：「都市における色彩の文化—旧奈良市の場合—」（日本都市学会：『都市と文化』, 地人書房, pp.85-92. 戸所泰子（2004）：「京都における町屋と町屋風建築物からみた「地域の色」の継承と創造」, 立命館地理学 16, pp.115-131. 戸所泰子（2006）：「京都市都心部

の空間利用と色彩からみた都市景観」, 地理学評論 79-9, pp.481-494

- 6) 本稿では, 農畜水産物等で特に生産の多いものを取り上げた。統計は2018年度農林水産省統計他による。
- 7) 中村周作 (2018): 「地域の色 (エリアカラー) を使った地域振興」 (同『佐賀・酒と魚の文化地理 - 文化を核とする地域おこしへの提言-』), 海青社, pp.180-184。
- 8) 佐賀段階とは, 1937・38年に, それまで踏み車で揚水していたところに電動ポンプが導入されて, 生産効率が上がり, 米の単位面積当たり収量日本一を記録した時期, 新佐賀段階は, 1965・66年に, 乾田化などの土地改良や機械などの導入, 集団統一栽培の実施などにより, 再び単位面積当たり収量日本一を記録した時期, 日本の米作は佐賀段階, 新佐賀段階に至ると称された。青野壽郎・尾留川正平編 (1976): 『日本地誌 20 佐賀県・長崎県・熊本県』, 二宮書店, pp.21-23。
- 9) 香川県 (2020): 「香川県の風土から生まれた讃岐三白」, https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyou/gimu/hometown/kagawa/n_pdf/44_53.pdf。
- 10) 京都市都市計画局都市景観部景観政策課 (2015): 「建築物等のデザイン基準 (美観地区・美観形成地区・建築物修景地区)」の「都市計画に定める建築物の形態意匠の制限」に定める色彩による。 https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000056/56458/design_kijun_2704.pdf#search。
- 11) 国税庁課税部酒税課 (2017): 「国内製造ワインの概況 (平成 28 年度調査分)」, <https://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/seizogaikyo/kajitsu/pdf/28wine.pdf#search>。
- 12) 新潟県酒造組合 (2020): 「新潟淡麗 新潟県酒造組合公式サイト」, <http://niigata-sake.or.jp/index.html>。
- 13) 那須塩原市 (2020): 「那須塩原市屋外広告物条例について」, <http://www.city.nasushiobara.lg.jp/23/008228.html>。
- 14) 福島県印刷工業組合 (2018): 「ふくしまの伝統色事業 ~ふくしまの伝統色彩調査と色彩文化の保存・発信~ ふくしまのいろ」, <http://www.f-pia.com/pdf/pamphlet.pdf#search>。